

## 第2回 第3次丹波市総合計画審議会 会議録

日時：2022年1月20日（金）

13:30～15:30

場所：氷上住民センター 大会議室

### 【出席者委員】

岸本 好量、竹内 真子、森島 斉、細見 博美、植木 光敏、大野 亮祐、瀬尾 せつ子、寺内 清、杉岡 秀紀、山口 洋子、池畑 美帆 （11名）

### 【欠席者委員】

上羽 裕樹、足立 はるみ、柳瀬 長明、實吉 直

### 【事務局】

副市長、清水ふるさと創造部長、磯崎総合政策課長、福垣政策係長、足立主事

配布資料：【資料1-1】 アンケート結果報告書（速報）の概要および前回との比較

【資料1-2】 第3次丹波市総合計画策定に係るアンケート結果報告書（速報）

【資料1-3】 高校生・小中学生アンケート自由記述欄記載一覧

【資料2-1】 市民ワークショップ開催実施要綱

【資料2-2】 市民ワークショップのちらし

【資料3】 各種団体ヒアリングの実施について

【参考】 丹波市まちづくりビジョン、第2期丹波市人口ビジョン

### 1. 開会

丹波市まちづくりビジョンについて【参考】

・・・事務局説明

### 2. あいさつ（副市長）

第2回審議会のメインとして、総合計画策定にあたってのアンケート調査の速報をご報告させていただく。今回は新しい取組として小・中学生（小学生は5・6年生）及び高校生に対して、WEB環境で、これから10年を見据えた世代のアンケート調査を実施した。また、これから市民WS、団体ヒアリングなど市民参画の機会を予定している。本日も様々な視点でご意見いただければと思う。

### 3. 報告事項

（1）市民ワークショップの開催について【資料2-1・2-2】

（2）団体ヒアリングの実施について【資料3】

（3）若手職員プロジェクトチームの設置について【資料なし】

・・・（1）から（3）を続けて事務局説明

【会長】 ワークショップは40名程度となっているが、多少40名を超える人数の参加があっても大丈夫か。

【事務局】 100名など極端に増えると難しいが、大きな会場で開催予定なので、ある程度余裕は

ある。

- 【会 長】 ワークショップに若手職員プロジェクトチームの職員が参加するにあたり、ワークショップ開催日までに、職員のファシリテート研修の機会は設定されているか。
- 【事務局】 事前に行う予定だが、1回の研修では難しいところがあるので、ワークショップ当日はサポートできる体制を考えている。
- 【会 長】 団体ヒアリングについて、追加の団体の意見を聞くべき、との意見が出た場合は、現段階でも追加は可能か。
- 【事務局】 提案があれば、検討する。
- 【委 員】 1月17日に自治会長会の役員会で、市から総合計画の進め方について説明があった。団体ヒアリングにも自治会長会の名前があるが、ヒアリング対象者は6人の役員に限られる。自治協議会にも声をかけてご意見をいただいても良いのではないかと考える。
- 【会 長】 自治会長会よりさらに細分化された自治協議会は25名になるので、事務局だけでは負担が大きいと考えられるため、若手職員ワーキングのメンバー18名が一人一地区を担当するなどを行うと良いのではないかと考える。
- 【事務局】 自治協議会にご意見を伺うことは大事なことだと認識している。市民活動課と調整して対応を考えていきたい。
- 【委 員】 調査対象団体の「根っこの会」、「大空の会」は、どのような団体なのか。
- 【事務局】 若手の農業者の団体で、「根っこの会」は女性を中心とした団体となっている。
- 【委 員】 都市計画マスタープランの委員もやっていたので、都市マスとの関係性を教えていただきたい。
- 【課 長】 総合計画はまちづくりの最上位計画の位置づけとなっており、都市計画マスタープランは、施設や道路等の都市施設の整備方針に特化した計画となっている。都市計画マスタープランは総合計画の将来像を見据えて、計画策定を行っている。
- 【委 員】 昨年都市計画マスタープランを策定したので、順番が逆ではないか。
- 【課 長】 都市計画マスタープランは、現行計画の第2次総合計画（後継基本計画）を見て策定しており、次に都市計画マスタープランを見直す際に、第3次総合計画を見て改定していくことになる。
- 【部 長】 それぞれの個別計画の計画期間は様々なので、策定時に最新の総合計画を1つの方向性としている。
- 【会 長】 全てを総合計画に合わせていくのは難しい部分ではある。総合計画を策定する時の注意点として、あまり細かい記載をせずに大きな方向性をしっかり示すことが大事である。それによって10年間のまちづくりとしての方向性が示されると考えられる。
- 【部 長】 第2次総合計画の後期版冊子の3~4ページに、総合計画の位置づけが記載されているので、参考にしていただければと思う。総合計画が市の最上位計画として、その下に都市計画マスタープランや教育振興計画などがあり、またその下に介護保険や障害福祉など個別計画がある。それが全体の構図になる。また、丹波市独自の計画としては、本日の資料にある「丹波市まちづくりビジョン」である。20年後のまちと暮らしを描いているものである。ぜひ今後の総合計画策定にあたって参考にしてほしい。
- 【委 員】 ヒアリング団体に「丹波市青年会議所」を追加してはどうか。20~40代の若い意見が聞けるのではないかと考える。

【事務局】 委員を通じてお願いしていきたい。

【委員】 ヒアリング団体について、「丹波ひかみ農協」「森林組合」を入れても良いのではないかと。

【会長】 いただいたご意見で進めていくことで良いか。

【全委員】 異議なし

【部長】 今回の策定には、市民の多くのご意見を踏まえて策定していくことを1つの方針としているので、可能な限り皆様のご意見を踏まえて遂行していきたいと考えている。

【会長】 若手職員の方にもヒアリングに行っていたいただいても良いと考えている。

#### 4. 協議事項

(1) 市民・高校生・小中学生アンケートの結果（速報）について【資料1-1、1-2、1-3】

・・・事務局説明

【会長】 根拠に基づいた計画づくりはとても大切だと考えるので、今回のアンケート調査は重要だと考える。また、小中高の子どもへのアンケートも実施されて、こういったまちづくりを考えていく機会を作ることに加え、声を拾いにくい若い世代のご意見を拾いあげられたと思う。速報でもしっかりと傾向が見えてきているので、第3次総合計画では、若者の声や市民の声が反映されるまちづくり施策を打ち出せるような計画としていくべきである。

【委員】 総合計画の認知度が低いのは、アピール不足であると考えている。市民が存在を知ること、市の取組もみえて、アンケートの結果も変わってくると思われる。これだけ頑張っているというアピールをもっと見せていくべき。

【委員】 アンケート等で意見を聞いていただけなのは、幸せな時代に生きていると実感できる。市民も市政が自分ごとと捉えられていないし、無関心であるので、未熟さが露呈している。声を上げるだけでなく、知識を付けて成熟した上で、意見を言えるようになればいいと思う。そのような仕掛けをした後のアンケートだったら結果も変わってくるのかと感じる。今回、若い世代が大事だと自覚していることが拾いあげられていると思う。

【委員】 自分自身国勢調査等で電話アンケートがあるが、すぐに切ってしまうこともあるが、ここに住んでいる限りまちづくりに関わっていかねばならないと思うので、もっとアンケートの回答者が増えるようになると良い。

【委員】 自分自身もまちづくりに無関心であったので、若い世代（小学生等）から意見を聞くことは大事だと思う。アンケートの中に買い物に対する意見が多いが、今やイオンなどがたくさんできている中で、どのような買い物環境を求めているのかわからない。文化系の答えがなかったので、その点は少し残念だった。また、子どもの意見の中に「空き家」の文言が出てきたことに驚いた。

【会長】 アンケートの限界で、買い物でもインターネットでの買い物が普及していないためそのように感じるのか、大型のショッピングセンターが近くにない・歩いていけないという意味なのか原因がはっきりと読み取れない。そのようなところは聞き取りが必要。

【委員】 アンケートは間接的で、ワークショップは直接的なので期待している。様々な市民の声を聴くためには、少し強引な手段も必要（例えば、市民から無作為に指名するなど）と考える。SNSなどを使用して、もっとアンケート等を実施していただければと思う。

- 【会 長】 総合計画の取組の中に、ワークショップ等は無作為で抽出で参加者を集めることができる仕組みのアイデアができると思う。
- 【委 員】 アンケートをみて、これだけ多くの子どもからの意見が集まったのかと思うと驚いた。沢山の子もたちが丹波市のことを好きだと感じていて、地元愛が育っているなという印象を受けた。それと比較すると、市民の回答率は低いと思う。インターネット調査の情報を自分は気づけていなかったの、アナログ媒体（丹波新聞等）に大きく掲載するのも良いと思う。
- 【会 長】 アンケートは終わってしまったが、ワークショップはこれからなので、新聞に掲載して募集するのはできないものか。
- 【事務局】 ワークショップの募集締切が2月3日となっているため、時間的に厳しいところがあるが、検討させていただく。
- 【会 長】 地方新聞等の媒体は効果が高いと考えるので、ご検討いただきたい。
- 【委 員】 これまで、様々な意見がでていますが、丹波市の方はそれほどまちづくりに無関心ではないと考える。自分の経験では、大きな会議ではなかなか意見が出てこないが、小さい括りにすることで、意見はたくさん出てくる傾向がある。実際にどのような場でどのような意見を言うて良いのかが分からない部分はあると思う。集落単位で意見を吸い上げると傾向を掴みやすいと思う。アンケートの結果から一定の傾向はみえているが、年代別にみてどの年代の方の回答が多いなどをみながら、施策を考えていけると良い。
- 【委 員】 企業側からアンケートをみると、高校生の8割が進学をするため、就職を希望する15%の方の取り合いになると考えている。大阪から丹波市は程よい距離感であったり、働きやすい企業もあると思うが、そこがまだ認知されていない世代もあるので、もっとPRしていくべきである。丹波市から撤退される企業もある中で、いかに8割の進学者を丹波市に戻すかを考えて、魅力ある環境づくりを考えていきたい。
- 【委 員】 小学生の自由意見の中で、「車が怖い」と書いている、こういった小さな意見を拾いあげていく必要があると思う。優先すべき施策の設問においても、「事故や犯罪が少ない安全なまち」というのが上位に上がっている。
- 【副会長】 アンケートは健全な予想通りの結果だと思う。丹波市は自然が豊かで、美味しいものも沢山あってという意見が最初に見える。また、医療センターのこともあり、医療に関する評価が上がっている。今回のアンケートでは、交通の不便さに関する意見が多かったのも特徴だと思う。やっぱり車がないと暮らせない。交通の不便さを解決することは、喫緊の課題としてあると思う。高校生の声の中で、店などが欲しいと声がある一方で、自然も残していきたいなどの声もあり、そういったところをどう一本にまとめていこうかが問われている。色んな交通に関する取組（JR 複線化、ちーたんバス、デマンド）も進められているが、本当の意味で使いやすいものにはなっていない。今後時代が進む中で、自動運転のバスなどの施策も考えていかなければならない。175号線道路も繋がれば、神戸・明石の方に行きやすくなる。丹波市の人の流れも変わる。瀬戸内海と日本海の核となる場所に丹波市があることになるので何かできればと考えている。人口を増やすのは難しいので、どれだけ昼間の流動人口を増やせるかがポイントになると思う。この総合計画の策定にあたっては、我々が今後考えていく計画が、どうすれば市民や小中高の子どもたちに知ってもらえるかを考えていく必要がある。いろいろな方

法でどれだけ広報しても、市民が自分事として捉えられていないこともあって難しい。これから実施する市民ワークショップや、例えば高校生の授業などで取り上げていただき、そこで出た生の意見というのをそのまま計画に反映できれば良いと思う。意見を言えば実現するというところを見せていくことが大事だと思う。

【会 長】 様々な意見を吸い上げて施策等を考えていくことが必要だと思うが、まちづくりに参加していく意識の醸成が特に大事だと思う。

## 5. その他

(1) 第3回丹波市総合計画審議会の開催について

日時：令和5年5月

場所：氷上住民センター 大会議室

※詳細な日程は調整次第連絡する

## 6. 閉会

【会 長】 委員の皆様もワークショップに参加したり、現場に見に行くなど、何らかの形でご参加いただけると有難い。

以上